



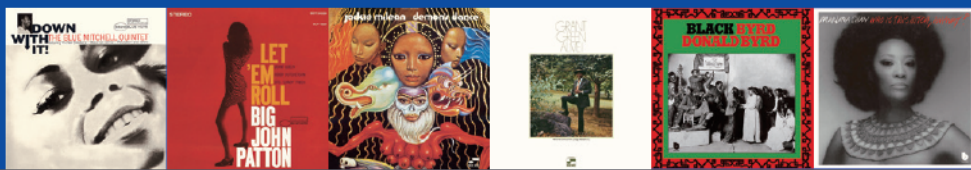
# THE 80 WORKS

史上最強のジャズ・レーベル、ブルーノート創立80周年記念!  
膨大なカタログからテーマ別に20作品ずつ厳選し、  
高音質UHQ-CD仕様でリイシュー



**第3回 2019.4.10 ON SALE** ハード・バップ誕生  
**第4回 2019.5.15 ON SALE** ニューノートの時代へ向かって  
**NOW ON SALE** **第1回** モダン・ジャズ黄金時代 **第2回** 新主流派の時代 | 各**1,800**円(税別)|

・高音質UHQ-CD仕様 ・オリジナルLPライナーノーツの日本語訳付 ・新規ミニ・ライナーノーツ付  
・ウェブサイト「BLUE NOTE CLUB」会員限定コンテンツへアクセス可能なシリアルコード封入



## 第3回 ハード・バップ誕生

### マイルス・デイヴィス・オールスターズ Vol.1 [+3]

UCCQ-9451

記念すべき1500番台最初の作品。20代のマイルスがブルーノートに記録したセッションを収録。不滅の傑作「テンパス・フュージット」や哀愁の「ディア・オールド・ストックホルム」など名演揃い。

(パーソネル) マイルス・デイヴィス(tp) J.J.ジョンソン(tb) ジャッキー・マクリン(as) ジミー・ヒース(ts) キルコギンズ(p) オスカー・ペティフォード、パーシー・ヒース(b) ケニー・クラーク、アート・ブレイキー(ds)

★1952年5月9日、1953年4月20日、ニューヨークにて録音



### マイルス・デイヴィス・オールスターズ Vol.2

UCCQ-9452

若きマイルスがブルーノートに残した3セッションから構成。「イット・ネヴァー・エンタード・マイ・マインド」の名演が名高い54年のセッションでは、美しくスリリングなプレイを披露している。

(パーソネル) マイルス・デイヴィス(tp) J.J.ジョンソン(tb) ジャッキー・マクリン(as) ジミー・ヒース(ts) キルコギンズ、ホレス・シルヴァー(p) オスカー・ペティフォード、パーシー・ヒース(b) ケニー・クラーク、アート・ブレイキー(ds)

★1952年5月9日、1953年4月20日、ニューヨークにて録音、1954年3月6日、ニュージャージーにて録音



### ジ・アメイジング・バド・パウエル Vol.1

UCCQ-9453

ブルーノートに記録された「ジ・アメイジング〜」シリーズの第1集。最初の2セッションを完全収録。衝撃の「ウン・ボコ・ロコ」3連発を皮切りに、「モダン・ジャズ・ピアノの父」の絶頂期の演奏が聴ける。

(パーソネル) バド・パウエル(p) ファッツ・ナヴァロ(tp) ソニー・ロリンズ(ts) カーリー・ラッセル、トミー・ポッター(b) マックス・ローチ、ロイ・ヘインズ(ds)

★1949年8月9日、1951年5月1日、ニューヨークにて録音



### ジ・アメイジング・バド・パウエル Vol.2

UCCQ-9454

ブルーノートに記録された「ジ・アメイジング〜」シリーズの第2集で、53年のトリオ録音を完全収録。美意識が際立つ「ニューヨークの秋」やクラシカルな「グラス・エンクロージャー」が聴きどころ。

(パーソネル) バド・パウエル(p) ジョージ・デュヴィエ(b) アート・テイラー(ds)

★1953年8月14日、ニューヨークにて録音



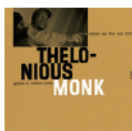
### ジニアス・オブ・モダン・ミュージック Vol.1 [+3]

UCCQ-9455

“バップの高僧”と呼ばれた孤高の天才が、ブルーノートに残したジャズ史に輝く歴史的遺産。斬新なハーモニー・センスや独自のリズム感覚を持つ作風が、キャリア初期の段階で完成されていたことに驚く。

(パーソネル) セロニアス・モンク(p) ジョージ・テイト、イドリース・スリーマン(tp) サヘブ・シハブ、ダニー・ケベック、ウェスト(as) ビリー・スミス(ts) ミルト・ジャクソン(vib) ジーン・ラミー(b) アート・ブレイキー(ds)他

★1947年、1948年、ニューヨークにて録音



### ジニアス・オブ・モダン・ミュージック Vol.2 [+10]

UCCQ-9456

#### セロニアス・モンク

“バップの高僧”と呼ばれた孤高の天才が、ブルーノートに残したジャズ史に輝く歴史的遺産。既成のスタンダードとは異なる音楽に魅せられた総帥アルフレッド・ライオンの情熱と執念も聴こえてくる。

(パーソネル) セロニアス・モンク(p) ケニー・ドーフム(tp) ルー・ドナルドソン、サヘブ・シハブ、ダニー・ケベック、ウェスト(as) ラッキー・トンプソン(ts) ミルト・ジャクソン(vib) ジーン・ラミー(b) アート・ブレイキー、マックス・ローチ(ds)他

★1947年、1951年、1952年、ニューヨークにて録音



### ミルト・ジャクソン [+7]

UCCQ-9457

ミルトのブルーノート唯一のリーダー作で、じきにモダン・ジャズ・カルテットを結成する仲間やルー・ドナルドソンらが共演。さらにセロニアス・モンクとの歴史的セッションからのナンバーも収録。

(パーソネル) ミルト・ジャクソン(vib) サヘブ・シハブ、ルー・ドナルドソン(as) セロニアス・モンク、ジョン・ルイス(p) パーシー・ヒース(b) アート・ブレイキー、ケニー・クラーク(ds)他

★1948年、1951年、1952年、ニューヨークにて録音



### イントロデューシング・ザ・ケニー・ドリュー・トリオ

UCCQ-9458

ブルーノートが有望な新人を発掘し世に送り出した「ニュー・フェイセズ〜ニュー・サウンズ」シリーズの一枚で、20代半ばのドリューの初リーダー作。超高速ソロは全盛期のバド・パウエルを思わせる。

(パーソネル) ケニー・ドリュー(p) カーリー・ラッセル(b) アート・ブレイキー(ds)

★1953年4月16日、ニューヨークにて録音



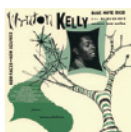
### ピアノ・インタープリテーションズ・バイ・ウィントン・ケリー

UCCQ-9459

ブルーノートが有望な新人を紹介した「ニュー・フェイセズ〜ニュー・サウンズ」シリーズの一枚で、ケリーが弱冠19歳で録音した初リーダー・アルバム。小品ながら後の個性を垣間見ることが出来る。

(パーソネル) ウィントン・ケリー(p) フランクリン・スキート(b) オスカー・ペティフォード(b) リー・エイブラムス(ds)

★1951年7月25日、8月1日、ニューヨークにて録音



### バードランドの夜 Vol.1 [+2]

UCCQ-9460

#### アート・ブレイキー

“ハード・バップ誕生の夜”と呼ばれる伝説のライブ・セッションを記録したブルーノート最初の実況録音盤。“トランペット・セッション”と紹介される若き天才クリフォード・ブラウンのプレイが鮮烈。

(パーソネル) アート・ブレイキー(ds) クリフォード・ブラウン(tp) ルー・ドナルドソン(as) except (2) ホレス・シルヴァー(p) カーリー・ラッセル(b)

★1954年2月21日、ニューヨーク、バードランドにてライブ録音



## バードランドの夜 Vol.2 +2

### アート・ブレイキー

UCCQ-9461

“ハード・バップ誕生の夜”と呼ばれる伝説のライブ・セッション第2集。チャーリー・パークーの代表曲「ナウ・ザ・タイム」、コンファメーション」では、各メンバーが勢いあるプレイを聴かせる。



〈パーソネル〉アート・ブレイキー(ds) クリフォード・ブラウン(tp) except (2)  
ルー・ドナルドソン(as) ホレス・シルヴァー(p) カーリー・ラッセル(b)

★1954年2月21日、ニューヨーク、バードランドにてライブ録音

## ホレス・シルヴァー& ザ・ジャズ・メッセンジャーズ

UCCQ-9462

ファンキー・ジャズの元祖であるシルヴァーの初期の名作。後に初代ジャズ・メッセンジャーズとなったメンバーでの録音で、ゴスペル・テイストのオリジナル曲「ザ・ブリーチャー」が当時大ヒット。



〈パーソネル〉ホレス・シルヴァー(p) ケニー・ドーハム(tp) ハンク・モブレイ(ts)  
ダグ・ワトキンス(b) アート・ブレイキー(ds)

★1954年11月13日、1955年2月6日、ニュージャージーにて録音

## アフロ・キューバン +2

### ケニー・ドーハム

UCCQ-9463

ラテン音楽とジャズが融合したアフロ・キューバン・ジャズを代表する名盤。「アフロディシア」は80年代にロンドンのクラブDJに再発見され、クラブ・ジャズ・シーンのキラー・チューンとなった。



〈パーソネル〉ケニー・ドーハム(tp) J.J.ジョンソン(tb)  
ハンク・モブレイ(ts) セシル・ペイン(bs) ホレス・シルヴァー(p) オスカー・ベティフォード、パーシー・ヒース(b) アート・ブレイキー(ds)  
カルロス・パターナルデス(cga) リッチー・ゴールドバーグ(cowbell)

★1955年1月30日、3月29日、ニュージャージーにて録音

## ハンク・モブレイ・カルテット

UCCQ-9464

ジャズ・メッセンジャーズのメンバーとなったモブレイの初リーダー作。当時のバンド仲間をバックに、ワンホーンで歌心溢れるソロを披露する。哀愁のメロディの人気曲「アヴィラ・アンド・テキーラ」を収録。



〈パーソネル〉ハンク・モブレイ(ts) ホレス・シルヴァー(p) ダグ・ワトキンス(b)  
アート・ブレイキー(ds)

★1955年3月27日、ニュージャージーにて録音

## カフェ・ボヘミアのジャズ・メッセンジャーズ Vol.1 +3

UCCQ-9465

ハード・バップ草創期に登場したジャズ・メッセンジャーズが、その名を冠した最初の記録。各楽器のトップ・アーティストが屈指のパフォーマーを披露する。「マイナーズ・ホリデイ」の熱演が名高い。



〈パーソネル〉アート・ブレイキー(ds) ケニー・ドーハム(tp)  
ハンク・モブレイ(ts) ホレス・シルヴァー(p) ダグ・ワトキンス(b)

★1955年11月23日、ニューヨーク、カフェ・ボヘミアにてライブ録音

## カフェ・ボヘミアのジャズ・メッセンジャーズ Vol.2 +3

UCCQ-9466

ハード・バップ草創期に登場したジャズ・メッセンジャーズが、その名を冠した最初の記録。各楽器のトップ・アーティストが屈指のパフォーマーを披露する。「アヴィラ・アンド・テキーラ」が特に名演。



〈パーソネル〉アート・ブレイキー(ds) ケニー・ドーハム(tp)  
ハンク・モブレイ(ts) ホレス・シルヴァー(p) ダグ・ワトキンス(b)

★1955年11月23日、ニューヨーク、カフェ・ボヘミアにてライブ録音

## ザ・チャンプ ジミー・スミス

UCCQ-9467

ハーレムのジャズ・クラブに出演中にアルフレッド・ライオンに見出され、ブルーノートと契約したスミスの第2弾アルバム。アルバム・タイトル曲では、まるで嵐のように、ひたすら激しく弾きまくる。



〈パーソネル〉ジミー・スミス(org) ソーネル・シュワルツ(b)  
ドナルド・ペイリー(ds)

★1956年3月27日、ニュージャージーにて録音

## ヒッコリー・ハウスのユタ・ヒップ Vol.1

UCCQ-9468

ブルーノートで約20枚のアルバムを録音したピアノ・トリオ。親しみやすいスタンダードを抜群のコンビネーションで演奏し、そのサウンドはいつも踊りたくなるほど楽しい。本作はキャッチーなナンバー満載の人氣盤。



〈パーソネル〉ユタ・ヒップ(p) ビーター・インド(b) エド・シグベン(ds)

★1956年4月5日、ニューヨーク、ヒッコリー・ハウスにてライブ録音

## ヒッコリー・ハウスのユタ・ヒップ Vol.2

UCCQ-9469

評論家のレナード・フェザーによって見出されたドイツの女流ピアニストのアメリカ進出作。程なく引退してしまうヒップの貴重なライブ録音。ホレス・シルヴァーに捧げた自作「ホレーション」を収録。



〈パーソネル〉ユタ・ヒップ(p) ビーター・インド(b) エド・シグベン(ds)

★1956年4月5日、ニューヨーク、ヒッコリー・ハウスにてライブ録音

## ハービー・ニコルス・トリオ

UCCQ-9470

セロニアス・モンクの信望者であり、近現代のクラシック作曲家が用いた斬新な和声感覚をジャズに取り入れた異才ピアニスト。「ザ・レディ・シンクス・ザ・ブルース」をはじめ重要なオリジナル曲を収録。



〈パーソネル〉ハービー・ニコルス(p) アル・マックボン(b) テディ・コティック(b)  
マックス・ローチ(ds)

★1955年8月1日、7日、1956年4月19日、ニュージャージーにて録音

## 第4回 ニューノートの時代へ向かって

### ディップ ハंक・モブレイ

UCCQ-9471

和み系スタイルのテナー・サクソ奏者が残した不滅の人気盤。哀愁の名曲「リカード・ボサノヴァ」に加え、ジャズ・ロック「ザ・ディップ」が快調。盟友リー・モーガンとのソロ・リレーも素晴らしい。



〈バージョン〉 ハंक・モブレイ(ts) リー・モーガン(tp) ハロルド・メイバーン Jr.(p) ラリー・リドレー(b) ビリー・ヒギンズ(ds)  
★1965年6月18日、ニュージャージーにて録音

### ファンシー・フリー ドナルド・バード

UCCQ-9476

時代を先取りしながら進化し続けたトランベッターが、時代の波に乗り初めて電化サウンドを導入した記念碑的アルバム。10人の大編成で、リズムカルなパーカッションをバックに爽やかなサウンドを繰り広げる。



〈バージョン〉 ドナルド・バード(tp) ジュリアン・ブリースター(bb) ジェリー・ドジョン、ルー・タバキン(tr) フランク・フォスター(ts) デューク・ピアン(rl-p) ジミー・ボンダー(g) ローランド・ウィルソン(b) イドリス・ムハマド、ジョー・チェンバース(ds) ナット・ペティス、ジョン・ロビンソン(per)  
★1969年5月9日、6月6日、ニュージャージーにて録音

### ゴールデン・サークルの オーネット・コールマン Vol.1 [+3]

UCCQ-9472

一時期シーンから身を引いていたオーネットが復活を遂げた、欧州ツアーのストックホルム公演の記録。全曲オリジナルで、創造的かつ刺激的な世界を繰り広げる。発売当時、各国で音楽賞に輝いた傑作。



〈バージョン〉 オーネット・コールマン(as) デヴィッド・アイゼンソン(b) チャールズ・モフェット(ds, glockenspiel)  
★1965年12月3日、4日、ストックホルム、ゴールデン・サークルにてライブ録音

### レット・ム・ロール ビッグ・ジョン・パットン

UCCQ-9477

ジミー・スミス〜ベイビー・フェイス・ウィレットに続くブルーノート第3のオルガン奏者。グラント・グリーン、ポビー・ハッチャーソンという60年代を代表するスターと共演したソウル・ジャズの人気盤。



〈バージョン〉 ビッグ・ジョン・パットン(org) ポビー・ハッチャーソン(vib) グラント・グリーン(g) オーティス・フィンチ(ds)  
★1965年12月11日、ニュージャージーにて録音

### ゴールデン・サークルの オーネット・コールマン Vol.2 [+3]

UCCQ-9473

オーネットがシーンの最前線に再び咲いた伝説の復活ライブ第2弾。アルト・サクソに加え、休養中に習得したトランペットとヴァイオリンを初披露。アイゼンソンとモフェットのサポートも素晴らしい。



〈バージョン〉 オーネット・コールマン(as, tp, vln) デヴィッド・アイゼンソン(b) チャールズ・モフェット(ds, glockenspiel)  
★1965年12月3日、4日、ストックホルム、ゴールデン・サークルにてライブ録音

### グリーン・イズ・ビューティフル グラント・グリーン

UCCQ-9478

一時期シーンから退いていたグリーンのカムバック第2弾。ギターで激しくシャウトするジェームス・ブラウンの「エント・イット・ファンキー・ナウ」など、R&B/ファンクナンバーで新たな魅力を発散する。



〈バージョン〉 グラント・グリーン(g) ブルー・ミッチェル(tp) クロード・パーティ(ts) エマニュエル・リボンズ、アール・ニール・クレーキー(org) ジミー・ルイス(el-b) イドリウス・ムハマド(ds) キンティッド(ega) リチャード・ランドラム(bgo)  
★1970年1月30日、ニュージャージーにて録音

### スプリング トニー・ウィリアムス

UCCQ-9474

10代でブルーノートの名セッションに参加した神童による、全曲オリジナルで固めたリーダー作第2弾。ウェイン・ショーターとサム・リヴァースによる異色の2テナー編成で繰り広げるスプリングな即興演奏。



〈バージョン〉 トニー・ウィリアムス(ds) ウェイン・ショーター、サム・リヴァース(ts) ハービー・ハンコック(p) ゲイリー・ピーコック(b)  
★1965年8月12日、ニュージャージーにて録音

### デモンズ・ダンス ジャッキー・マクリーン

UCCQ-9479

数多くの名作を残したマクリーンが、レギュラー・クインテットで吹き込んだブルーノート最終作。ウディ・ショウの勢いあるブレイが光る。ショウ作の哀愁の旋律「スイート・ラヴ・オブ・マイン」が名高い。



〈バージョン〉 ジャッキー・マクリーン(as) ウディ・ショウ(tp, flh) ラモント・ジョンソン(p) スコット・ホルト(b) ジャック・ディジョネット(ds)  
★1967年12月22日、ニュージャージーにて録音

### ダウン・ウィズ・イット ブルー・ミッチェル

UCCQ-9475

ホレス・シルヴァー・グループから独立したミッチェルが、自己のクインテットを率いて録音したブルーノート第2弾。僚友ジュニア・クック、新鋭チック・コリアらと息の合ったブレイを全編で聴かせる。



〈バージョン〉 ブルー・ミッチェル(tp) ジュニア・クック(ts) チック・コリア(p) ジーン・テイラー(b) アル・フォスター(ds)  
★1965年7月14日、ニュージャージーにて録音

### ザ・ジョディ・グラインド ホレス・シルヴァー

UCCQ-9480

自己のルーツをテーマにした作品を連発していた充実期の快作。新主流派の気鋭の若手たちが、キャッチーなシルヴァー節で弾ける。「メキシカン・ヒップ・ダンス」はクラブ・シーンでも人気のナンバー。



〈バージョン〉 ホレス・シルヴァー(p) ウディ・ショウ(tp) ジェームス・スポールディング(fl, as) タロン・ワシントン(ts) ラリー・リドレー(b) ロジャー・ハンプリース(ds)  
★1966年11月2日、23日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9481

## スイート・ハニー・ビー デューク・ピアソン

ピアニスト/作編曲家/プロデューサーとしてブルーノートに貢献したピアソンが、3管セクステットを率いてその手腕を発揮した傑作。全曲オリジナルで、カラルでキュートなメロディの詰め合わせが楽しい。

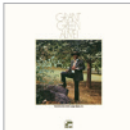


〈パーソネル〉 デューク・ピアソン(p) フレディ・ハバード(tp) ジェームス・スボールディング(fl, ss) ジョー・ヘンダーソン(ts) ロン・カーター(b) ミッキー・ローカー(ds)  
★1966年12月7日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9482

## アライヴ!+3 グラント・グリーン

ファンク・ジャズ路線にシフトした後期グリーン傑作ライヴ盤。クール&ザ・ギャングのカヴァーや、Us3がサンプリングした「スーキー・スーキー」では、バンドが凄まじい熱量のグルーブを生み出す。



〈パーソネル〉 グラント・グリーン(g) クロード・バーティ(ts) ウィリアム・ピヴンズ(vib) トニー・フォスター・オール・ニール・クリーク(org) イドリース・ムハマッド(ds) ジョセフ・アムストロング(cga)  
★1970年8月15日、ニュージャージー州ニューアーク、ザ・クリシェ・ラウンジにてライヴ録音

UCCQ-9483

## サンフランシスコ ボビー・ハッチャーソン

故郷カリフォルニアへ戻ったハッチャーソンが、テナー・サクスのハロルド・ランドと結成した新グループによる傑作。クルセイダーズ発足直前のジョー・サンブルが人気曲「ゴイン・ダウン・サウス」を提供。



〈パーソネル〉 ボビー・ハッチャーソン(vib, marimba, per) ハロルド・ランド(fl, oboe, ts) ジョー・サンブル(p, el-p) ジョン・ウィリアムス(b, el-b) ミッキー・ローカー(ds)  
★1970年7月15日、ロサンゼルスにて録音

UCCQ-9484

## トータル・レスポンス ホルス・シルヴァー

シルヴァーがブルーノート後期に録音した、メッセージ性の強い“人心連合シリーズ”の第2弾。全編でヴォーカルをフィーチャーし、シルヴァーもエレクトリック・ピアノを披露。レアグルーブの代表的名盤。



〈パーソネル〉 ホルス・シルヴァー(el-p) セシル・ブリッグウォーター(tp, flh) ハロルド・ウィット(g) リッチー・レスニョア(g) ポプ・クランショウ(el-b) ミッキー・ローカー(ds) サロメ・ベイ・アンフィ、ベイ(voc)  
★1970年11月15日、1971年1月29日、ニュージャージーにて録音

UCCQ-9485

## エルヴィン・ジョーンズ・ライヴ アット・ザ・ライトハウス Vol.1

縦横無尽の演奏で魅了するスーパー・ドラマーが残した最高のライヴ・パフォーマンス。ポスト・コルトレン世代の2人の若手サクソ奏者をフロントに据え、圧倒的な熱量のパフォーマンスを繰り広げる。



〈パーソネル〉 エルヴィン・ジョーンズ(ds) デイヴ・リーブマン(fl, ss, ts) スティーヴ・グロスマン(ss, ts) ジーン・パバラ(b)  
★1972年9月9日、ロサンゼルス、ライトハウス・カフェにてライヴ録音

UCCQ-9486

## エルヴィン・ジョーンズ・ライヴ アット・ザ・ライトハウス Vol.2

ロサンゼルス近郊の老舗ジャズ・クラブで録音されたスーパー・ドラマーの白熱のステージ後編。激しく吹きまくる若きサクソ奏者2人を時に煽りながら、完璧にコントロールするエルヴィンの手腕が見事。



〈パーソネル〉 エルヴィン・ジョーンズ(ds) デイヴ・リーブマン(fl, ss, ts) スティーヴ・グロスマン(ss, ts) ジーン・パバラ(b)  
★1972年9月9日、ロサンゼルス、ライトハウス・カフェにてライヴ録音

UCCQ-9487

## ブラック・バード ドナルド・バード

かつてのハード・バップの名トランペッターが、ブラック・ファンク界で名声を確立した記念碑的アルバム。次代を担う若手を起用し、サンブルでコンテンポラリーなサウンドを創出。全米チャート36位を記録。



〈パーソネル〉 ドナルド・バード(tp, flh, el-tp, lead-vo) フォンズ・マイゼル(tp, vo) ディーン・パークス、デヴィッド・T. ウォーカー(g) ジョー・サンブル(p, el-p) フレッド・ベレン(el-p, synth, vo) ウェルトン・フィッシャー・チャック・レイニー(el-b) ハーヴィー・メイソン(ds) ラリー・マイゼル(vo)他  
★1972年4月3日、4日、11月24日、ロサンゼルスにて録音

UCCQ-9488

## サテン・ドール ボビー・ハンフリー

ヒップホップ・アーティストに数多く音源をサンプリングされてきた女性フルート奏者。共演歴のあるデューク・エリントンへの追悼と愛娘の誕生をテーマにした、マイゼル兄弟とのコラボレーション第2弾。



〈パーソネル〉 ボビー・ハンフリー(fl, vo) フォンズ・マイゼル(tp, clavinet) ジェリー・ビーターズ(p, clavinet) ラリー・マイゼル(el-p, synth, arr, cond) メルヴィン・ワウ・ワウ・レイジン、ジョン・ロウレン(g) チャック・レイニー(el-b) ハーヴィー・メイソン(ds) 他  
★1974年6月20日、7月22日、8月5日、ロサンゼルスにて録音

UCCQ-9489

## フー・イズ・ジス・ビッチ、エニウェイ? マリーナ・ショウ

行きずりの男と女のラヴ・ストーリーをテーマにした、ソウル系ジャズ・シンガー畢生の名作。ロバート・フランクの全米No.1ヒット「フィール・ライク・メイキン・ラヴ」をしっかりとりめかしくカヴァー。

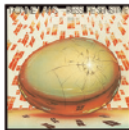


〈パーソネル〉 マリーナ・ショウ(vo, p) デヴィッド・T. ウォーカー、ラリー・カルトン、デニス・パドミア(g) ベナード・アグナー(p, b, flh) マイク・ラング、ビル・メイズ(p) ラリー・ナッシュ(el-p, synth) チャック・レイニー(el-b) チャック・ドマニコ(b) ハーヴィー・メイソン(ds, per) 他  
★1974年12月3日〜6日、12日、ロサンゼルスにて録音

UCCQ-9490

## プレッシャー・センシティブ ロニー・ロウズ

サクソ奏者ロウズが放った大ヒット曲「オールドウェイズ・ゼア」を含む初リーダー作。ファンキーなクラヴィネットと、ロウズが奏するポップなメロディが魅力的に絡む。ウェイン・ヘンダーソンがプロデューサー。



〈パーソネル〉 ロニー・ロウズ(fl, ss, ts) マイク・キャヴァラー、ジョー・サンブル(clavinet, el-p) ジェリー・ビーターズ(el-p, synth) ジョン・ロウレン、ローランド・バティスト(g) クリント・モスリー、ウィルトン・フィッシャー、スティーヴ・ガティアーレス、マイケル・ウィラーズ(ds) 他  
★1976年3月〜4月、ニューヨークにて録音



最上級の名曲と名演。  
ブルーノートのすべてがここに。

## GREATEST BLUE NOTE

史上最強のジャズ・レーベル、ブルーノートの決定的名曲・名演ばかりを21曲収録。Disc 1にはブルーノート史上に輝く歴史的名盤から、Disc 2にはノラ・ジョーンズなどの近年のヒット曲からクラブ・シーンで再評価されたメロウ&グルーヴィーなナンバーを収録しました。

**2019.4.10 ON SALE**

UCCU-1595/6 2CD: ¥2,160(tax in)



最上級の名曲と名演。  
ボサ・ノヴァのすべてがここに。

## GREATEST BOSSA NOVA

誕生60周年を迎えたボサ・ノヴァの決定的名曲・名演ばかりを30曲収録。Disc 1には今もエヴァーグリーンな輝きを放つボサ・ノヴァを代表するナンバーを、Disc 2には午後のコーヒー・ブレイク・タイムにもピッタリなメロウ&グルーヴィーなナンバーを収録しました。

**2019.4.10 ON SALE**

UCCU-1597/8 2CD: ¥2,160(tax in)

## 史上最強のジャズ・レーベル、 ブルーノート創立80周年記念

その輝かしい歴史と魅力がわかる最新版ガイドブック!!

### 『ブルーノート80ガイドブック』

収録内容: レーベル史上に燦然と輝く名盤10選 / レーベルを代表する伝説的ミュージシャン12選 / 特別寄稿「ブルーノートを担当し始めたころ」/ BNLA鼎談 / ブルーノート社長ドン・ウォズ 特別インタビュー / ブルーノートの現在そして未来 / ブルーノートの80年 マンガ早わかり 他

**NOW ON SALE** UCCZ-20045 ¥3,240(tax in) 監修: 原田和典

ウェブサイト「BLUE NOTE CLUB」  
会員限定コンテンツへアクセス可能なシリアルコード封入



『ジャズ・ジャイアンツ・カレンダー 2019』も好評発売中 UCCZ-20046 ¥2,160(tax in)

ジャズの新情報サイト

**BLUE NOTE CLUB** [bluenote-club.com](http://bluenote-club.com)